

CIIM研究会が主催し、熊本大学大学院特任教授の小林一郎氏が講座の中心的な役割を担う「CIIMチャンピオン養成講座」が、10年目の節目を迎える。企業でCIIMソフトを扱う技術者（CIIMモデラー）とCIIM関連データの監理者（CIIMマネジャー）が2人1組で受講する独自のスタイルが好評となり、これまでに80社超の企業から約300人が受講した。

4月から国土交通省のBIIM/CIIM原則適用が始まる。第10期生の講座もBIIM/CIIMの普及定着を見据え、テーマを「統合モデル（データ連携・流通）」と設定した。演習部分を大幅にリニューアルする方針で、これまでの受講者でも一つ上のスキルを身に付けられるような高度な演習プログラムを組むという。

講座は月1回のペースで年8回開催する。1回当たり講義1時間、演習3時間の構成となり、同時に「BIIM/CIIMクラウド（KOLC+）」を活用し、期間中、連絡事項だけでなく、ソフトウェアに関連する質問も受け付け、事務局がクラウド上で回答する

## モデル使いこなす人材づくり



10期の節目を迎え、演習部分を刷新

支援体制も整えている。受講生が回答するケースもあり、クラウドが受講生の交流の場にもなっている。これまでの質疑も蓄積しており、受講生は検索することで過去のやり取りを知ることができ、さらなるノウハウを得ることができ。

講座修了時には、積極的に質問やアドバイスを示した受

講生を「チャンピオン」として認定しており、これまでのチャンピオン受賞者はBIIM/CIIM普及の先導役として社内外で活躍している。あるチャンピオン受講生は「同じ悩みを持つ同業と情報交換できる場は貴重だ。ここで多くの人たちに本物のBIIM/CIIMを学んでもらいたい」と呼び掛ける。

講座は、12年に国土交通省がCIIM試行導入をスタートさせたことを踏まえ、人材育成・教育の重要性を感じていた小林氏と、小林研究室の卒業生有志が集い、14年にスタートした。小林研究室では05年に講座の前身となる3D勉強会を発足しており、数多くのプロジェクトにも携わり、CIIM試行導入の初期期には牽引役としても活動してきた。

10期生の講座は5月からスタートする。小林氏は「原則適用が始まり、いよいよBIIM/CIIMを日常的に使っていく時代となる」としており、「これからはツールを使いこなせる人材ではなく、モデルを使いこなせる人材を少しでも多く育てていく必要がある」と強調する。

